会員のページ

熱測定討論会と国際交流

川路　均

熱測定討論会での発表は，質・量ともに非常に充実し，完全に世界レベルに到達していると言えましょう。本誌先号(Vol.26, No.2)に「学会発表と言葉」と題する問題提起がなされましたが，日本熱測定学会の世界の熱測定研究における重要性が高まっていること，さらに今後ますます国際的な活動が求められていることによるものと受けとめています。

日本の熱量測定，熱分析にかかわる研究者が広く全世界の研究者と国際交流を進め，また日本の研究を国際的に知らしめるには，外国で開催される熱測定関係の国際会議に参加することが非常に重要であると思います。実際に，多くの方々がさまざまな国際会議に積極的に出席され，国際交流に努力されていますし，この傾向は今後ますます盛んになるものと思われます。これに加えてもう一つ重要なことは，国際的な会議を日本で積極的に開催することであろうと思います。大阪で開催されたIC-CT-96のような大きな国際会議の日本への誘致は勿論ですが，今回のCATS-99などをはじめとするさまざまなレベルでの国際会議や国際ワークショップが日本であるいは日本人メンバーを中心にして数多く開催されるべきではないでしょうか。日本は国際会議をオーガナイズすべき立場に来ていると思います。

そのような中での熱測定討論会のあり方ですが，予稿も既にケミカルアブストラクトへの抄録のために発表題目，発表者，アブストラクトは英語で記載されていますし（ケミカルアブストラクトを通じて海外から著者への問合せも増えているようです），本文を英語にしている日本人発表者も増えてきています。日本語に加えて英語を使用できるように明記することは良いことだと思いますし，日本人の英語による発表もあってよいと思います。しかし，実質的な討論を十分に行うには，外国人参加者には残念なことですが，現時点では日本語の方が有効と思われます。国際交流はもちろん進めていかなければなりませんが，通常英語を使用する頻度の少ない日本においては，元来の国内での討論を主体とした熱測定討論会を国際化するよりも，むしろ日本熱測定学会を中心とした国際会議や国際ワークショップの開催など，国際的活動を進めることを考えていかなければならないのではないでしょうか。

東京工業大学 応用セラミックス研究所，構造デザイン研究センター，〒226-8503 横浜市緑区長津田町4259
Tokyo Institute of Technology, 4259 Nagatsuda-machi, Midori-ku, Yokohama 226-8503, Japan